MJC YOUR Best Partner,
MJC Anytime Anywhere

MJC

Corporate Profile

株式会社日本マイクロニクス

トップメッセージ ——

MJC YOUR Best Partner, MJC Anytime Anywhere

日本マイクロニクスは、1970年に創業し、「電子計測技術を通じて広く社会に貢献する」という使命のもと、半導体関連の検査・測定ソリューションを提供しております。また、当社の目指す姿として「MJC YOUR Best Partner, MJC Anytime Anywhere」を掲げ、いつでもどこでもステークホルダーの皆さまにとって最良のパートナーとなることを目指しております。さらに、事業活動を通じて環境の保全や様々な社会課題の解決に取り組み、サステナブルな社会の実現に貢献していきたいと考えております。

半導体は、生活や産業に関わるあらゆる用途に使用されるようになり、私たちにとって欠かせない存在となっています。また、経済安全保障の観点からも戦略物資として位置づけられ、その重要性が高まっています。半導体は今後も進化を続け、その高性能化に伴い、検査工程はますます高度化・複雑化していきます。

このような社会的ニーズを踏まえ、これからも技術開発や生産能力の強化、カスタマーサポートなどを通じて、革新的な半導体検査ソリューションを提供し続けてまいります。

当社グループは、「電子計測技術を通して広く社会に貢献する」の使命のもと、これからも持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に努め、より豊かな社会の発展に貢献してまいります。

代表取締役社長
長谷川 正義

Top Message

日本マイクロニクスの企業理念 ——

創業者の精神

MJCの使命「電子計測技術を通して広く社会に貢献する」のもと、持続可能な社会に貢献していくため、3つの創業者の精神を大切にしています。
これまでのMJCの成長を支え、グループの原動力となっているこの精神を、MJCのDNAとして守り伝えていきます。
北極星のようにぶれることのない存在であり、私たちを迷うことなく導く指針となるものです。

01　原理原則を大切にする。

新たな分野を切り拓き、発展していくためには、これまでの経験や常識、慣例などに囚われるのではなく、物事の本質を見据え、原理原則に基づいた判断、発想、行動をするよう心がけることが肝要である。
また、人間として道徳、倫理を判断基準として行動することにより、人はどんな局面においても迷うことはなく、うろたえることもない。

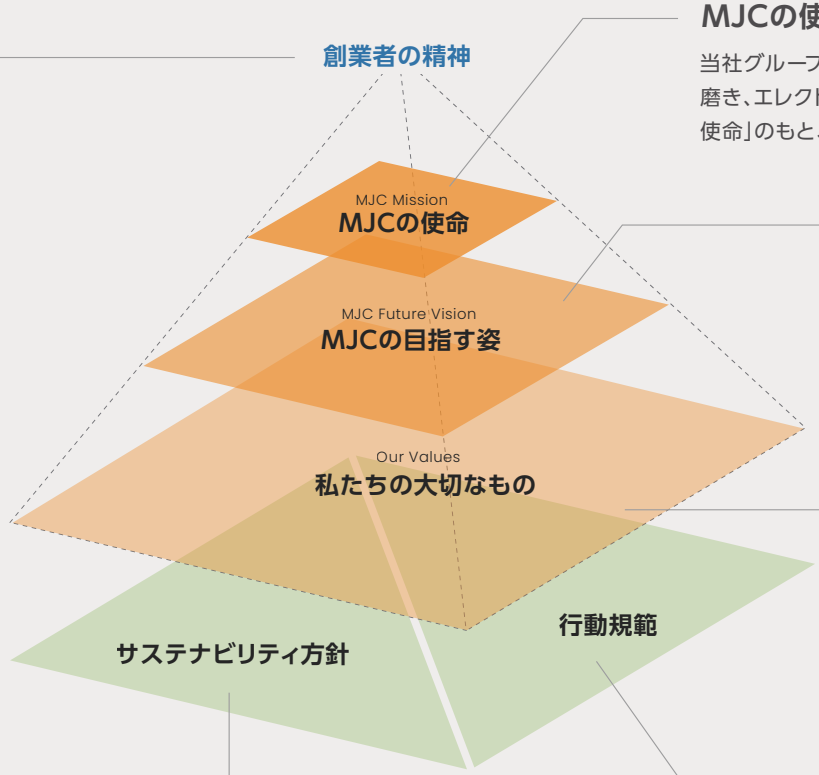
02　「観・感・勘」を大事にし、自己の能力開発を追求する。

製品や技術の開発に携わる人は日頃から、「物事をよく観察する」「観察から得られた感心、感動、感激を大事にする」ことを忘れてはならず、「観察、感動が勘を働かせ」、結果的に自己の能力が向上することに繋がる。

03　達成への5つのステップ「夢（needs）」「想定」「創意」「熱意」「実行」を確実に踏んでいく。

達成には「夢（needs）を叶えるために」「結果を想定し」「創意工夫をこらし」「熱意を持って励み」「継続的な実行努力をする」ことが最も重要である。

Corporate Philosophy



MJCの使命 ｜ 電子計測技術を通して広く社会に貢献する

当社グループは、ステークホルダーの皆さまのために果たすべき「MJCの使命」を掲げています。創業から技術を探求し磨き、エレクトロニクスの発展と共に当社グループも成長してきました。これからも変わることなく、私たちはこの「MJCの使命」のもと、より豊かな社会の発展に貢献するため挑戦し続けます。

MJCの目指す姿 ｜ MJC YOUR Best Partner, MJC Anytime Anywhere

長期的な当社グループの目指す姿を表した「MJC Future Vision」を、事業環境の変化を踏まえて、この「MJCの目指す姿」に集約しました。
「MJCの目指す姿」は、幅広いステークホルダーの皆さまにとって、MJCがどのような存在でありたいかを表しています。“ステークホルダーの皆さまのベストパートナーを目指したい”、“いつでもどこでも選ばれる存在でありたい”、そうした思いを胸に、私たちはより良い未来に貢献していきます。

私たちの大切なもの ｜ QDCCSS + QDCCSS$^{2.0}$

原点となる「QDCCSS」(呼称：クダックス)は、お客さまからの信用と信頼を得るために誕生し、長年に渡り浸透し続けている私たちの大切な価値観です。更に、事業環境の変化と社員の声から、新しい価値観が求められていることを踏まえ、新たに、成長のための「QDCCSS$^{2.0}$」を制定しました。「私たちの大切なもの」を成長の原動力とし、「MJCの使命」と「MJCの目指す姿」の実現を目指していきます。

行動規範

日本マイクロニクスでは、すべての役員と社員がコンプライアンスの実践をより確実にするため、法令・定款・社内規則・企業倫理を周知徹底するだけでなく、ひとりひとりが留意すべき事項をまとめた「コンプライアンスハンドブック」を作成し、遵守意識を高めています。

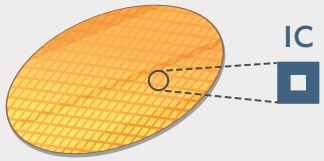
サステナビリティ方針

01 健全な発展を推進する企業
02 お客さまに信頼される企業
03 環境と社会へ思いやりと感謝を持って接する企業
04 社員一人ひとりが多様な力を発揮できる企業

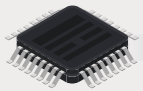
半導体検査と日本マイクロニクスの製品 ——

半導体を検査で支える

様々なモノがネットワークで繋がるIoTの普及により、半導体の重要性はもちろん、求められる性能もますます高まっています。
こうした半導体は、製造過程で複数回の検査に合格し、安全性や品質が保証されたものです。
日本マイクロニクスは、半導体の検査機器を安定した品質で提供することを通じて、安心・安全な社会を支え続けています。



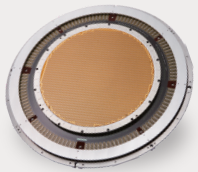
シリコンウェーハ



半導体デバイス

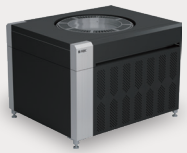
エレクトロニクス製品

検査

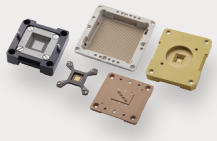


プローブカード

ウェーハプローバ



半導体テスタ



テストソケット

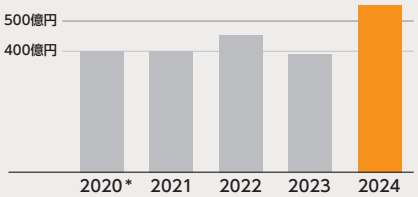
Semiconductor Inspection

数字で見る日本マイクロニクスの今——

プローブカードのリーディングカンパニーとして

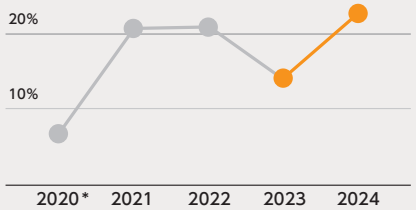
*2020年は決算期変更により2019年10月から15ヶ月間の実績を掲載

売上高 550億円



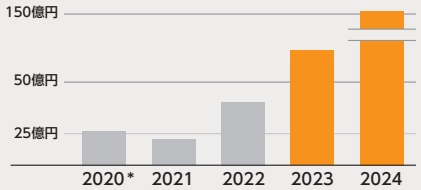
2024年は生成AIの普及を背景としたAI関連半導体の市場が大きく拡大し、AIサーバー用メモリの検査需要を取り込み、当社売上高も大きく増加しました。

営業利益率 22.6%



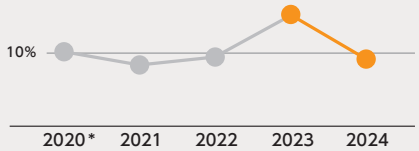
生産性向上やコストダウンなどを推進し、市場変動にも左右されずに利益が出せる体制づくりを目指しています。

設備投資額 154億円



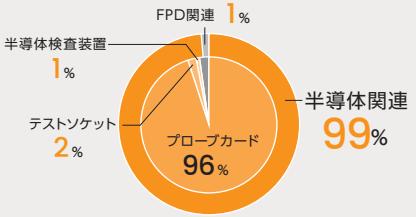
2024年は青森工場新棟建設にともない、大幅な増加となりました。

研究開発費率 毎年約10%



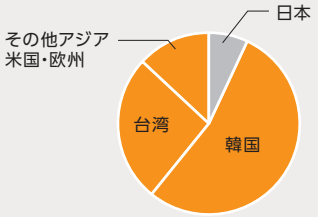
コンスタントに売上高の約1割を研究開発に投資し、積極的に技術開発をおこなっています。

半導体関連製品売上比率 99%



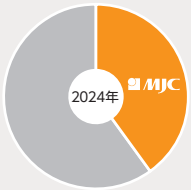
プローブカードを中心に、半導体関連製品が売上の99%を占めています。

売上高海外比率 約90%



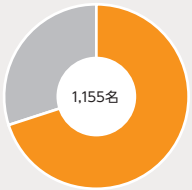
多様化するニーズにMJCグループのネットワークで対応しています。

世界シェア メモリ向けプローブカード 第1位



プローブカードのリーディングカンパニーとして、製品の優位性を維持し、市場シェアをキープします。(TechInsights社調べ)

ものづくりの現場で働く従業員の割合 約70%



技術を探求し、品質を磨き続けているMJCグループでは、全従業員のうち約70%がものづくりの現場で活躍しています。(2024年12月31日現在)

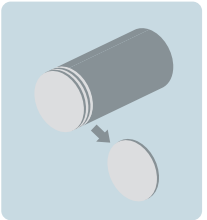
日本マイクロニクスの事業と製品 ——

半導体関連製品　半導体製造の多彩なニーズに応える最先端製品群

日本マイクロニクスの主力製品であるプローブカードは、ウェーハ上に形成された集積回路の電気特性検査に使用する検査器具です。その他にも、半導体デバイスの特性評価に使用されるウェーハプローバ、良否判定をおこなう半導体検査装置（テスタ）、最終検査工程でパッケージングされた半導体を検査するテストソケットなどをラインナップし、半導体製造を支えています。最先端の技術と万全な製品供給体制で、様々な検査環境のニーズに対応しています。

半導体製造プロセス 〉〉

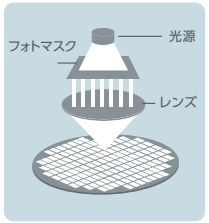
01　ウェーハ製造



IC*チップ（半導体）は、主に超高純度の単結晶シリコンウェーハ上に製造します。

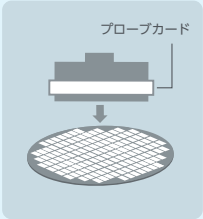
* IC（Integrated Circuit）：集積回路

02　基板・配線工程



ウェーハに回路パターンを焼き付け、イオンなどを注入することで微細な電子回路を形成します。

03　ウェーハ検査

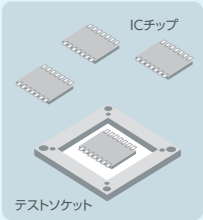


ウェーハ上に形成された半導体デバイスの電気特性検査をおこないます。

04　実装・組立工程

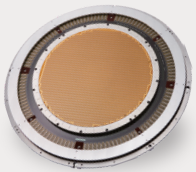
ウェーハから数ミリ角のICチップに切り出し、樹脂などのパッケージに封止します。

05　最終検査



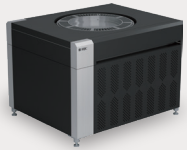
パッケージングされたICチップは、テストソケットを用いて機能や信頼性を厳格に検査します。

製品例

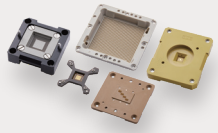


プローブカード

ウェーハプローバ



半導体テスタ



テストソケット

Business and Products

FPD関連製品

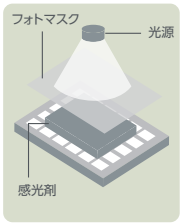
コンタクト性能が高く、メンテナンス性に優れたFPD製品

FPD*の検査工程でプローバに搭載し、パネルにテスト用の電気信号を伝えるプローブユニットを各種展開しています。安定したコンタクト性能と優れたメンテナンス性により、高精度で信頼性の高いテストをし、テストコスト低減や生産性向上に貢献しています。

*FPD(Flat Panel Display):フラットパネルディスプレイ

FPD製造プロセス 〉〉

01 TFTアレイ工程

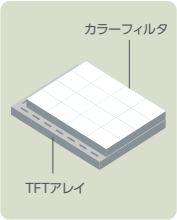


特殊加工されたガラス基板上にTFT(薄膜トランジスタ)回路を露光形成します。

02 TFTアレイ検査

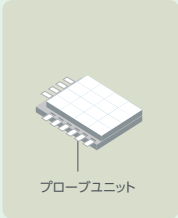
ガラス基板上に形成された微細なTFT回路を電気的および光学的に検査します。

03 セル工程



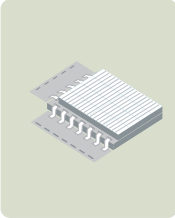
TFTアレイ基板とカラーフィルタ基板を貼り合わせ、液晶を封入し、切断して液晶セルを完成させます。

04 セルパネル検査



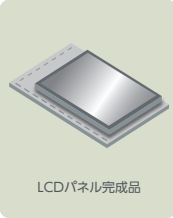
液晶セルにプローブユニットを介し点灯させ、パネルの点欠陥や線欠陥、色ムラ、コントラストなどを検査します。

05 モジュール工程・検査



パネルにドライバICやバックライトを取り付けモジュール化し、点欠陥、線欠陥、コントラストなどの検査やムラ補正をします。

06 最終検査

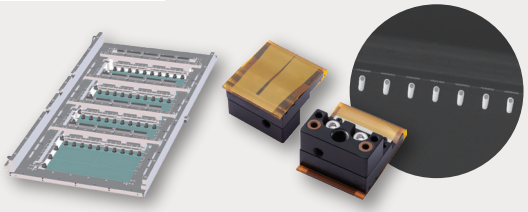


最終製品の外観・性能検査および耐久性試験などをおこないます。

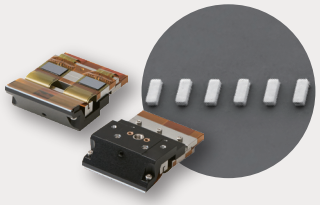
製品例

プローブユニット

製品例



プローブユニット　プローブブロック



プローブブロック

日本マイクロニクスの歩み ——

半導体・FPD市場を電子計測技術で支えてきました

since 1970

1970
シンクロスコープ、ファクシミリ、産業半導体、
真空試験装置のメンテナンスを目的として、
東京都にトーワ電気株式会社を設立

1971
半導体を対象とした機器の研究開発を開始

1975
商号を株式会社日本マイクロニクスに変更

1981
青森県に平賀工場を新設

1985
大分県に大分営業所を新設
青森県に新平賀工場（現青森工場）を新設
青森営業所を開設
大分工場を新設

1989
東京都に研究開発センターを開設

1997
日本証券業協会に株式を店頭公開
大分県に大分テクノロジーラボラトリーを開設

第2回アドバンストディスプレイ オブ ザ イヤーで
「TFTアレイプローバLP4500」が優秀賞を受賞

1999
米国カリフォルニア州に支店を開設

1970年代	1980年代	1990年代
計測技術と微細加工技術への挑戦	プロービング技術の確立	プロービング技術の可能性を追求

History

2000

青森県南津軽郡平賀町
(現 平川市)に
青森松崎工場を開設

2003

中国上海市に子会社
MJC Microelectronics
(Shanghai)Co., Ltd.を設立

韓国に子会社
MDK Co.,Ltd.を設立
(2011年6月 MEK Co.,Ltd.と合併)

2004

台湾に子会社
Taiwan MJC Co., Ltd.を
設立

ジャスダック
証券取引所に上場

2005

中国上海市に子会社
CHINA MJC CO., LTD.
を設立

2006

米国テキサス州に子会社
MJC Electronics Corporation
を設立

東京都に子会社
株式会社MJCテクノを設立
(2017年 吸収合併)

2007

独国ザクセン州に子会社
MJC Europe GmbHを設立

2008

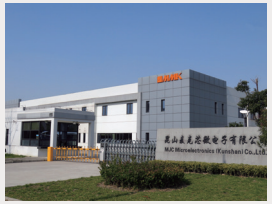
韓国京畿道富川市に子会社
MEK Co., Ltd.を設立

2010

国内全拠点においてISO9001、
ISO14001の認証取得

2011

中国江蘇省に子会社
MJC Microelectronics(Kunshan)Co., Ltd.を設立



2015

東京証券取引所市場第一部に市場変更

2016

シンガポールに子会社
MJC Electronics Asia Pte.Ltd.を設立

2020

決算期を9月30日から12月31日に変更

2022

東京証券取引所の市場再編にともない、
東京証券取引所プライム市場に上場

2023

サステナビリティ推進体制強化のため
サステナビリティ推進部と諮問委員会を設置

韓国子会社の新棟が竣工

2024

企業理念の改定とサステナビリティ方針の制定

青森工場の新棟が竣工

2000年代

MEMS技術の進化とグローバル化

2010年代

2020年代～

MJC Future Visionで更なる成長へ

日本マイクロニクスが誇る技術——

5つのコアテクノロジーでコンタクト技術を追求

コンタクト技術とは、検査対象デバイスの微細な端子に
プローブを均一かつ正確に接触する技術です。
プローブカードをはじめ、テストソケット、プローブユニットなどは、
この技術を活かした製品です。
日本マイクロニクスの成長を支えてきたのは、
追求し続けてきたコンタクト技術なのです。

01 Design Technology

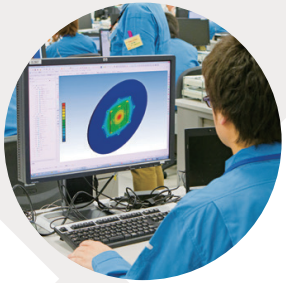
高密度配線基板を実現した設計技術

プローブカードの基板設計においては、独自の設計手法を確立しています。電子部品の高密度実装と、それらを電気的に接続する高集積配線により、高密度配線基板を実現しました。こうした基板設計技術が、ウェーハ検査で同時に多数のICチップ（半導体）にコンタクト可能な検査効率の高い製品を生み出しています。

03 Industrial Science

生産設備・製造プロセスを自社開発する生産技術

日本マイクロニクスでは、コアとなる部品の生産設備や製造プロセスを自社で開発しています。微細なプローブを基板へ搭載する工程の自動化により、高品質な製品を短納期で安定供給することを実現しました。また、内製設備は海外拠点にも展開しており、世界中のお客さまに同じ品質の製品とサービスをお届けしています。



05 Analysis and Evaluation

プローブカードの品質と進化を支える解析・評価技術

プローブおよびプローブカードの構造（デザイン）は、半導体の電気計測精度を左右する大切な要素です。日本マイクロニクスは長年にわたって磨いてきた解析（コンピュータシミュレーション）技術を駆使して、製品の構造、伝送回路、試験環境を厳密に評価・検証し、製品の品質と性能の向上に役立てています。

02 Design and Manufacturing Technology

半導体の超微細化ニーズに応える独自のMEMS*設計・製造技術

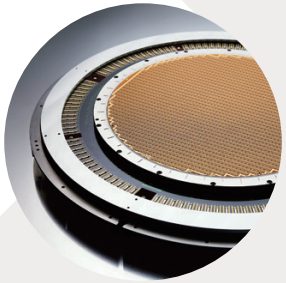
日本マイクロニクスは独自のMEMS技術を開発して、プローブカードの超微細なコンタクタとなるプローブ（探針）を設計・製造しています。MEMSとは、シリコンや樹脂などの基板上に、センサ、アクチュエータ、電子回路などを集積化した極小のデバイスです。

* Micro Electro Mechanical Systems（微小電気機械システム）

04 Wiring Technology

300㎜ウェーハの一括検査を実現した薄膜多層配線技術

セラミック薄膜多層配線基板は、セラミック基板上に微細な回路が形成された薄膜を積層したものです。大口径セラミックの焼成と、高密度の薄膜多層配線を自社で設計・製造することに成功し、開発困難と言われた300㎜ウェーハ一括測定プローブカードの製品化を、世界で初めて実現しました。



ステークホルダーとともに ——

持続的な成長をめざし様々な活動をおこなっています

Environment

環境へ配慮した取り組み

日本マイクロニクスは地球環境保全活動として、廃棄物の削減、リサイクルの促進、化学物質の適正管理などを継続的におこなっています。生産現場では省エネルギーを意識した効率の良いものづくりを進め、生産プロセスの改善や生産ロス削減に取り組んでいます。また、気候変動の緩和に向けて、再生可能エネルギーを導入し、CO_2削減に努めています。青森工場では排水処理装置を導入し、凝集沈殿などのプロセスを経た処理水を放流しています。
プローブカードの生産には金などの貴金属が使用されるため、排水から回収し、リサイクルしています。

Society

コミュニティと地域活動

私たちが事業活動を続けていくためには、地域の皆さまと共生していくことが欠かせません。日本マイクロニクスは、様々な活動を通じて地域社会との親和性を深めています。青森工場では社員ボランティアによる清掃活動のほか、「平川ねぷたまつり」に参加し、地域社会の皆さまとともに祭りを盛り立てています。
また、国内の全拠点では、近隣の方々にもご利用いただけるAED（自動体外式除細動器）を設置しています。さらに各工場では日本赤十字社に協力し、定期的に献血を実施しています。

Human capital and Work-life balance

人財育成とワークライフバランス

日本マイクロニクスでは人材を財産と捉え、新入社員研修や技術研修会、グローバル人財の育成を目的とした英語学習プログラムなど、社員全員が成長できる教育・研修制度を構築しています。さらに、アンコンシャスバイアス研修やエンゲージメントサーベイを実施し、多様な人材が活躍できる組織風土の醸成に努めています。
また、社員が安心して長く働き続けられるよう、ワークライフバランスの充実や、働きやすい環境づくりに積極的に取り組んでいます。育児や介護と仕事の両立を支援する「育児・介護休職制度」や「短時間勤務制度」のほか、15年以上の長期勤務者に対するリフレッシュ休暇など、社員の様々なライフステージに応じた制度を設けています。

Governance and Compliance

コーポレート・ガバナンスとコンプライアンス体制

日本マイクロニクスは、企業価値の向上と企業の社会的責任を果たすため、経営の意思決定の的確性と透明性の確保に努めています。経営体制のチェック機能充実を重要課題とし、取締役会および監査等委員会が「内部統制システム構築の基本方針」に基づき、適切に責務を遂行することで、コーポレート・ガバナンスの充実を図っています。
さらにコンプライアンス・リスクマネジメント委員会を設置し、社会規範の遵守とリスク管理に関する対策を実施するとともに、経営監査部による当社グループ全体を対象とした内部監査の実施により、情報・危機管理方法の統一と共有化および経営の効率化を確保しています。
また、社員および役員が法令や会社規則などを遵守するためコンプライアンス規程を定め、行動規範をハンドブックとして全グループ社員に配付しています。その他にも、eラーニングによる定期的な学習や外部講師による研修など、コンプライアンス体制の強化に取り組んでいます。

MJCグループのグローバルネットワーク ——

世界中に広範なネットワークを確立しています

海外ネットワーク

米国 ｜ MJC Electronics Corporation
11004 Metric Blvd. Austin, TX 78758, U.S.A.

ドイツ ｜ MJC Europe GmbH
Bodenseestrasse 217, 81243 Munich, Germany

韓国 ｜ MEK Co., Ltd.
28, Sinheung-ro 446beon-gil, Ojeong-gu, Bucheon-si,
Gyeonggi-do, 14452, Republic of Korea

シンガポール ｜ MJC Electronics Asia Pte. Ltd.
1 Tai Seng Avenue, #05-04, Tai Seng Exchange, Singapore 536464

中国 ｜ 昆山麦克芯微电子有限公司
MJC Microelectronics (Kunshan) Co., Ltd.
No.6 Dexin Road, Zhangpu Town, Kunshan City, Jiangsu Province,
215321, China

中国 ｜ 迈嘉路微电子(上海)有限公司
CHINA MJC CO., LTD.
701 Room, 7th Floor, No.1733, Lianhua Road, Minghang District,
Shanghai, 201103, China

台湾 ｜ 美科樂電子股份有限公司
Taiwan MJC Co., Ltd.
No.36, Sec. 2, Huanbei Rd., Zhubei City, Hsinchu County 30265, Taiwan

North America

MJC Electronics Corporation

PC TE

PC PC事業(プローブカード)

TE TE事業(半導体テスタ・プローバ・テストソケット・プローブユニット)

Japan

株式会社日本マイクロニクス

PC TE

国内ネットワーク

本社・営業所

本社
〒180-8508 東京都武蔵野市吉祥寺本町2-6-8
TEL:0422-21-2665(代表)FAX:0422-21-9383

青森営業所
〒036-0114　青森県平川市町居南田571-2
TEL:0172-44-8546 FAX:0172-43-1015

大分営業所
〒870-1117 大分県大分市高江西2-5-1
TEL:097-596-7703 FAX:097-596-6093

工場

青森工場
〒036-0114 青森県平川市町居南田571-2
TEL:0172-44-7277(代表)FAX:0172-44-7278

青森松崎工場
〒036-0164 青森県平川市松崎西田41-1
TEL:0172-43-0060(代表)FAX:0172-44-1811

大分テクノロジーラボラトリー
〒870-1117 大分県大分市高江西2-5-1
TEL:097-596-7220(代表)FAX:097-596-7232

商号	株式会社日本マイクロニクス MICRONICS JAPAN CO., LTD.
設立	1970年11月2日
本社所在地	〒180-8508 東京都武蔵野市吉祥寺本町2-6-8 TEL.0422-21-2665（代表）
事業内容	半導体計測器具、半導体・LCD 検査機器等の開発・製造・販売
資本金	50億1,835万円
従業員数	1,155名
グループ従業員数	1,620名

2024年12月31日現在

www.mjc.co.jp

©May 2025 MJC